

第 22 号

群大病院 地域連携だより

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、
国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。

入退院センターにおける業務拡大への取り組み

患者支援センター 看護師長 富田 千恵子



医療の機能分化・在院日数の短縮が進む中、地域包括ケアシステムの構築が求められ、病院と地域との連携が益々重要となっています。このような状況の中で、病院と地域をつなぐ部署である患者支援センター内に属する入退院センターは、外来・病棟・地域と連携し、患者に対して医療や看護が切れ目なく、継続するよう関わる役割があります。

当院の入退院センターは、平成 24 年 4 月に「入院前から始まる退院支援」をコンセプトに、看護師 3 名、対応診療科 3 科でスタートしました。その後、看護師の増員と共に対応診療科を拡大し、現在看護師 11 名、薬剤師 1 名、外注事務職員 8 名で、22 診療科の予定入院前面談を行っています。開設して間もないころは、確実な業務実施や対応診療科拡大に向けてのシステムづくりを行っていたため、面談数増加が難しい状況にありましたが、昨年は 3 つの業務改善を実施し時間の有効活用につなげ、対応診療科の拡大と面談数の増加、さらに面談の質の向上につなげることができましたので、紹介いたします。

1. 各時間帯の業務量の均等化

看護師面談は、他科外来受診や検査の後に予約を取り、実施することを中心に行っていましたが、外来診察中の 9 時～11 時の看護面談数は少なく、外来診察が終了する昼前後に患者が集中して混み合い、患者の待ち時間も増えたため、入院当日の 10 時前に面談を行うことにしました。その結果、午前中の早い時間から面談を開始することが可能になり、入院前看護面談件数は、平成 26 年は 47 件でしたが、平成 27 年は 228 件となり、総面談数 660 件の約 35%を占めるようになりました。

2. 対応診療科の専任化

知識不足の分野では、十分な情報収集とアセスメントを実施することができないため、これまでの病棟経験を活かして、対応診療科ごとの専任化を行いました。具体的には、各スタッフの得意分野を明確にし、看護師の担当する対応診療科の一覧表を作成し、この表を参考に、翌日の予約患者の担当決定に活用しました。専門知識を活かし、余裕をもって面談を行うことでの的確な情報収集も可能になり、退院調整にもつながっています。

群馬大学医学部附属病院
患者支援センター（連携担当）

患者支援センターホームページ

〒371-8511 前橋市昭和町三丁目 39 番 15 号

電話 027-220-7733

FAX 027-220-7777

<http://kanjasien.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

3. 各看護師の業務の均一化

個人の専門性を重視しながらも、複数の科を兼任し、フォローしあう弾力的なチーム体制を作りました。

例えば、看護師Aと看護師Bは耳鼻咽喉科をメインに面談を行っていますが、消化器外科の面談数が多い時や面談が重なった時は、消化器外科の面談にも対応するようにしています。このような診療科の専任化と弾力的なチーム体制を取ることで、個人の負担の軽減と効率化を図りました。その結果、平成 25 年度から看護師数は 10 名前後で変化はありませんが、総面談件数は、平成 25 年度 400 件から平成 27 年度 660 件と、2 年間で約 260 件増加しています。

この様に、試行錯誤を繰り返し現在に至っていますが、平成 28 年 4 月から新たに、医学生の臨床実習参加の同意書の説明と用紙の配布、がん地域連携パスの説明が開始され、5 月から伝染性疾患の既往と予防接種の確認が加わりました。今後も円滑な入退院に向けて外来や病棟との連携を密にし、日々業務の見直しや改善を行うとともに、各スタッフの能力の向上に努めていきたいと考えております。地域の皆様との連携も、益々密になるよう努力いたしますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



患者支援センタースタッフ

前列中央：村上患者支援センター長（兼検査部長）

前列中央左：中島副センター長



〔臨床検査の国際規格：ISO15189 認定のお知らせ〕

群馬大学医学部附属病院では、2016 年 3 月 17 日に臨床検査室に特化した国際規格である ISO15189 に認定されました。ISO15189 の認定は群馬県だけでなく、北関東では本院が初めてです。

ISO15189 とは、臨床検査室の高い技術水準を維持して検査結果の信頼性を確保し、加えて安心して安全な医療サービスの向上を図ることを目的とした、臨床検査室の品質保証のための国際規格です。

国際共同治験や医師主導治験をはじめとした治験や臨床研究を積極的に行う医療機関では、検査精度を確保するために ISO15189 の認定を取得する必要があるとされています。

認定を受けるためには、すべての検査項目の業務手順を文書化し、国際基準に則って臨床検査を実施する必要があります。公益財団法人日本適合性認定協会による詳細な実地審査の結果、本院の検査部ならびに臨床試験部の検査部門はこれらの要件を満たすと認められました。

国際規格による認定取得を通して、臨床検査結果の精確さが向上し、継続的に臨床検査室の業務内容の改善が図られ、医療安全への貢献が期待されます。ISO15189 に認定されたことにより、公益財団法人日本適合性認定協会から本院への認定証交付式を 4 月 8 日に実施いたしました。

認定証交付式では、公益財団法人日本適合性認定協会専務理事から、「認定はスタートラインであり、今後も PDCA サイクルによる継続的な改善に努め、利用者の信頼に添えてほしい」との挨拶があり、田村遵一病院長からは、「ISO15189 の認定に恥じないよう業務を行っていきたい」との挨拶がありました。



日本適合性認定協会専務理事から認定証を交付される
田村病院長、村上検査部長

※ ISO…国際標準化機構(International Organization for Standardization)

〔第 7 回群馬大学医学部附属病院 地域医療連携施設交流会のお知らせ〕

地域に根ざした病院として、現在までに登録いただいた地域医療連携施設との前方・後方連携をさらに深め、相互理解と意見交換等を目的とするもので、平成28年度においても下記のとおり実施いたします。

なお、地域医療連携登録施設の皆様には別途、ご案内を送付しております。

同封の回答書にて事前のお申込みをお願いいたします。

【日時】平成28年7月14日(木)

I 部:18時30分～19時20分 II 部:19時30分～20時40分

【場所】前橋市商工会議所(I 部:2階 ローズの間 II 部:2階 サクラの間)

【内容】群馬大学医学部附属病院からの各種活動報告、意見交換等



〔市民講座のお知らせ〕

市民講座

平成28年
日時 7月9日(土)13:30~16:30(開場 13:00)
会場 群馬会館 (群馬県庁前) 前橋市大手町2-1-1

申込不要

プログラム

教育講演

座長：群馬大学医学部附属病院 患者支援センター長 村上 正巳

「乳がんにならないために…。乳がんになったら…」

群馬県立がんセンター 乳腺科部長 柳田 康弘先生

特別講演

座長：群馬大学大学院保健学研究科 看護学教授 神田 清子

「がんと付き合う食生活」

群馬大学医学部附属病院 栄養管理室長 大友 崇先生

交流茶話会 参加自由です。患者会メンバーも参加しますので、お気軽にお立ち寄りください。

申込み 不要 (当日、直接会場へお越しください)

駐車場 群馬県庁駐車場をご利用ください

費用 無料

お問い合わせ先 TEL : 027-220-7854 群馬大学医学部附属病院 医事課



主催 群馬県がん診療連携協議会 / 群馬県

指定 日本医師会生涯教育講座1単位 (カリキュラムコード 21,25)
 日本薬剤師研修センター認定2単位 日本病院薬剤師会生涯研修認定 1.5 単位

共催 群馬大学医学部附属病院 / 群馬県がん患者団体連絡協議会 / 公益財団法人群馬県健康づくり財団 / がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
 後援 群馬県医師会 / 群馬県看護協会 / 群馬がん看護研究会 / 群馬県薬剤師会 / 群馬県病院薬剤師会 / 群馬県栄養士会 / 群馬県医療ソーシャルワーカー協会 / 前橋市 / 上毛新聞社 / 群馬テレビ

